

もし税金がなくなったら

国民や住民のために行う国や地方公共団体（県や市町村）の仕事には、「税金」が使われています。

もし税金がなくなったら…



教室の窓が割れても、雨漏りがしても修理されないかもしれない。



医療費が高くなり、病気の予防や治療が受けにくくなるかもしれない。



救急車が有料になるかもしれない。



図書館や美術館が建てられないかもしれない。



ごみ収集車がこないかもしれない。



税金のはたらき

わたしたちが納めた税金は、みんなの安全を守る仕事（警察・消防など）、みんなの暮らしをより良くする仕事（道路の整備・ごみ収集など）、みんなのために役立つ活動（教育・医療・福祉・年金など）のために使われています。また、災害からの復旧のためにも使われています。

このように、税金は、社会を支えるために使われています。



そうね。暮らしを支えるために正しく税金を納めることはもちろんのこと、税金の使われ方をしっかり考えることが大切ね。

これからは、みんなが主役になるんだから。

税金はわたしたちが生活するために必要なことに使われているのね。

税金ってぼくたちにとっても大切なんだね。



納税の義務って？

日本国憲法では、税金を納めること（納税）が国民の義務と定められています。この「納税の義務」は、「子どもに普通教育を受けさせる義務」「勤労の義務」となっていて「国民の三大義務」の一つとされています。

【日本国憲法第30条より】
国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。